



“道民の暮らしを守る共産党の議席、北海道から必ず” 4日札幌で志位委員長、はたやま比例候補が気迫の訴え



歩道を埋めた 2000 人を超した聴衆

寒い中、通りすがりの方が次々足を止めて、パルコ前は聴衆でびっしりになりました。「私はキリスト教信者」という南区から来た女性は、「テレビの党首討論を聞いて腹が立っていた。今日の演説を聞いて、胸がスーとした。あらゆることを真剣に考えているのが共産党だと思っています」と。

「はじめて志位さんの話をナマで聞きました」という人は、「あたたかな声で、こころに響いた、共産党をさらに大きくしなければと思いました」と。誘われて参加したという女性は「志位さんの話は力強い。比例は共産党に入れるよ」と支持を表明するなど、会場での感想が届きました。

選挙カーから力をこめて訴え

強い風と吹雪、寒さのなかでの第一声のあと、はたやまカー、政党カーと12台の小選挙区カーが全道を走っています。車長からは「ペンライトを照らし、タンバリンを打つなど寒い中選挙カーを待っている人に励まされています。七飯町に向かう交差点では“今度のはびるぞ!”と大きな激励を受け、観光に来ているという人が7000円の募金をとどけてくれるなどどこでも大きな変化を感じます」と報告しています。



「比例は日本共産党とお書きください。候補者名は無効です」を繰り返し徹底しよう。